

荒尾ウェルビーイングスマートシティ(ヘルスケア分野) 実証実験 (あらおスマートシティ推進協議会)

■都市課題

人口減少、少子高齢化、医療・介護給付費増加などの荒尾市の社会問題に対しては**健康寿命の延伸**が必要であり、そのために「**誰もが繋がりをもち健康でいきいきとした暮らしをつくる**」ことを目指す。

■実証実験の概要・目的

「さりげなく日常をセンシング→健康分析→自身及び家族と共有」の仕組みによるスマートヘルスケアサービス、及び「**パーソナルデータの分散管理**」の仕組みによる行政手続きのデジタル化サービスを市民に体験してもらう中で、それぞれの**社会受容性を検証**する。同時にニューノーマル時代のヘルスケアサービスのアイデアを得る。

■解決方策

自助と共助の浸透した社会を実現する。そのために健康に寄与する行動変容を促す「**さりげないセンシングによるスマートヘルスケアサービス**」を創出し普及させる。

■KPI

ヘルスケア分野KPI	健康づくり意識向上	健康づくり意識向上	
平均自立期間	毎年健診や人間ドックを受けている人の割合	[R1]69.2% → [R7]75%	
	社会的孤立の防止	他者との交流が無いと感じる人の割合	[H7]15.3% → [R7]12.5%
	スマートヘルスケアサービスの普及	当該サービス利用者数	TBD
男性	[R1]78.9年 → [R7]79.5年		
女性	[R1]83.8年 → [R7]84.4年		

■実証実験の内容

さりげないセンシングによるスマートヘルスケア (ウェルビーイングミラー)
市民向けサービス体験会を市内ショッピングセンター等で開催し(合計約150名参加)、アンケート・インタビューを通して、サービス仮説の社会受容性を検証。

●サービス①: 日々の健康管理&リコメンドサービス



●サービス②: 独居高齢者の健康管理&見守りサービス



- サービス③: 学校での子供の心の健康管理サービス
- サービス④: 病院における業務の効率化サービス

行政手続きのデジタル化 (乳幼児健診手続き)

パーソナルデータを分散管理するPLR(Personal Life Repository)システムを用いた行政手続きの体験を通して、社会受容性及び行政業務の効率性を検証。

■実証実験で得られた成果・知見

さりげないセンシングによるスマートヘルスケア (ウェルビーイングミラー)

- ・いずれのサービスも**70%以上**が「**使いたい**」と回答しておりニーズ高い。
- ・サービス①②は**70%程度**が「**有料でも取り入れたい**」と回答しており、**有料化して持続可能な収益事業として運営できる可能性**もあり。(PoB通して詳細検討必要)
- ・サービス①②③は**66%以上**が「**行動に移す**」と回答しており**行動変容のきっかけ**になり得る。



行政手続きのデジタル化 (乳幼児健診手続き)

- ・市担当者の関連業務に要する**工数が年間約13人日~23人日**低減できる見込み。
- ・パーソナルデータ利活用に関する市民の受容性は十分にあると言える。

■今後の予定

